

大阪の教育

大阪教師会

〒596-0814
大阪府岸和田市岡山町
443-13
電話 090 (7363) 9544
振替口座 00910-9-1433

増え続ける支援学級

児童・生徒

大阪教師会 中曾 邦輔

三年前中学校の支援学級担任、去年は、小学校の支援学級担任をしていた。中学校は教科担任制であるため教科指導は比較的やりやすかった。また、三年生になると進学のこともあり、登校しない生徒に登校するよう促すが反応は少なかった。教科指導は国語科であったが人数が少なく、教室に来る生徒は、決まりはきちんと守るので指導がしやく、予定通り進行するので楽しい担任を味わうことができた。

中学生は、三年後には高校進学があり、そのためには勉強しなければならぬという意識があるためか、登校している生徒はそれなりに学習する。

なかには登校しても、一日中制服

をかぶり仮眠、昼食を食べて再度仮眠、午後三時になると起床して、さつさと下校というタイプの生徒もいた。中学生ともなると、学力差が大きいため指導が大変であるが、本人の意思を尊重するということで指導する側には、次の指導計画が立てやすい。

小学校では、各市町で方法が違う。教科中心の指導もあれば、その子の実態に応じての指導もある。私が関わった学校では、教科指導中心であったため子どもは大変だったようである。

一学級五〜六人、学年は一年生から六年生まで、各時間で多い時は五人とか六人が教室に来ている。その上学年はバラバラで一人の教師で対応ができない。特に、低学年の児童は、側につかないと学習ができない。それに対して中学年の児童はどうなのかと言え、自分で課題に取り組みるかと言え、そう簡単にはいか

ない。そこで、多くの教師はプリント学習になってしまふ。

五・六年生になっても、かけ算九九がしんどい児童もいる。それでも教科中心の指導でという。

同じ学校のベテラン教師の話によると、「学級崩壊、担任が途中で休む等で教科指導が不十分であった」という。

そのような事情で支援学級敵の児童が増加しているのではないだろうか。公立小学校の支援学級の児童数は、一クラス4人から6人前後で構成している。

また、支援適になった児童で、通常学級に戻った場合、支援員が付くようになっていく。(特別な事情) そのようなことで毎年子どもの数が増加傾向にある。従って、普通学級の3分の1に近い数の支援学級数である。

私立学校にも

支援学級設置に支援を

最近私立学校でも支援が必要な生徒が増加しているようである。公立学校では経済面では地方公共団体が負担しているので若干のゆとりがある。

ところが私立学校では、自校負担になってくるようで、そのような見

童生徒のために、公立並みに設置が厳しいようである。

入学させた児童生徒を育てることに関しては、公立・私立に関係なく大切且つ重要である。

大阪府教育委員会でも、私学にも支援学級が必要ことは十分理解されていることと思う。

そこで私立学校にも、支援学級設置に関して、教室の増改築、教師の人件費等について経済的支援をお願いしたい。

第六十一回

教育研究大会行われる研究報告

一、研究主題

今教師に求められる資質能力

〜研修の工夫と実践〜

二、記念講演「教師の使命と

これからの教師会」

講師 皇學館大學教育学部教授

渡辺 毅

(要旨) 日本教師会が発足して六十二年経過し、その記念誌としてDVDに納めることができた。

この大会のテーマである「教師の使命とこれからの教師会」ということで講演があった。文科省が学習指導要領の小・中・高当学校に共通する主題は「主体的、対話的で、深い

「学び」ということから、未来の児童・生徒に身につけなければならない能力である。それは大変難しい課題でもある。それに対応するためには、教師は日々の授業を振り返り、児童生徒が受け身になっていなかっただけを発見して授業改善するために、教師一人一人が主体的に研修、研究に努めなければならない。

そこで教師の研修をサポートするのが日本教師会ではないだろうかという。

では教師としてどのような資質・能力が求められているかと言え、次の五つだという。

- 一、教師とその素養
- 二、学習指導の能力
- 三、生徒指導の資質、能力
- 四、特別支援児童生徒の配慮及び指導能力
- 五、IT活用能力

等以上の五つが求められている。次に研修参加者に「教師としての使命感について」OECDの調査を元に話された。それによると、日本の教師は「社会に貢献する即ち向社会的な動機が国際平均より低く、功利的に考えている傾向がやや強い」という結果が出ている。そして、仕事に対する満足度は、参加国中、日本は最下位（中学校）となっている。

引き続き「教師として使命感について4〜5人のグループで話し合ってほしい」と言うことで話し合った。各グループともに楽しい雰囲気話し合っていた。このような新しい内容が記念講演に取り入れられたことはこれからの日本教師会の大きな飛躍になると思われる。

渡辺氏は大学教員として学生を指導して実践から感じ取られた方法であったと思われる。

我々教師も日々児童・生徒に聞かせるだけの授業では、相手は満足していないであろう。児童・生徒は友達と意見交換したり、話し合ったり、論争したりしてこそ、学校に来て授業を受ける楽しみがある。即ち、学習指導要領のいう「主体的、対話的で、深い学び」はそれを表しているというものである。

教師会は思想心情に偏らない中立的な教育実践を求め、児童・生徒のために教材研究をし、実践し、反省し学習指導要領を超え、いや変えるように努力したいものである。

その実現のために教師は今後とも研究と実践を通して、解決する資質・能力を持てるよう努めてほしいと考えている等が熱く語られた。

二、実践表

〈小学校〉

子どもの志を育む教育の実践

世田谷区立多聞小学校教諭 伊藤 勝

今時の子どもたちの実態

自分に長所がある………16%
自分に満足をしている………45%
自分はダメな人間だと思う……80%
国際比較において我が国の子どもは自信・主体性・自立性・自尊心などが低いことがよく分かる。

このような国際比較においても思わしくない。また、自分は、多くの人の尊い犠牲の上に成り立っているのかを知らない、学習していない。又、最近若者の自殺数が増えている。加えて小中高生も増加傾向になっているのも、原因の一つとして統計から読み取れる。だからなんとかしてはならないと思うようになった。

更に、日本はダメという負のメッセージを受け取ってしまっている自分。だから、教師となった今、逆に日本のプラスの部分子ども達の魂に影響させたい。

●子どもの実態とその変容
担任するまでの二年生のクラス実態

・ほぼ毎日給食の皿が割れる。

- ・五時間目まで給食が片づかない。
- ・掃除を真面目にしない。
- ・教室から脱走する。
- ・筆箱を開けて全員の鉛筆を折る
- ・マジックで「〇〇死ね」と壁に書く。
- ・黒板ふきをはさみで切る。
- ・給食にチヨークの粉を振りかける。

●対策として次のような実践を行う。
○偉人の話をする。

日本人ならだれでも知っている偉大な先人・偉人を紹介する。

・二宮尊徳・塙保己一・北里柴三郎・糸川英夫・本田宗一郎・校区内の偉人など。

○実施方法

- ・朝の会の活用
- ・日本語の時間の活用
- ・生活科の活用
- ・道徳科の活用
- ・偉人の顔写真配布
- ・学級通信の活用

●実践一、生活科「町探検、地域の名人を探そう」

・地域へ出かけ働く人にインタビューをしてみよう

その前に「糸川英夫」について話をする。（日本初、宇宙への探検）

そして学校のすぐ隣に町工場がある。そこで働いているおじさんにか聞いてみよう。

「なぜ、その仕事をしているんですか」に決まり出かけた。(事前に打ち合わせをする。大人として、未来を担う子ども達のために志やおもいを答えてやってほしいと打ち合わせをする)

*大人も本気になった。

働く人の声「私たちの作る部品は、日本の電気のメーターに使われている。みんなが豊かに暮らせる電気がある生活を支えているんだよ」そして、不良品が出ないよう一つ一つ心を込めているんだよ。工場はいつも綺麗にしておくんだよ。うちの部品は宇宙船ハヤブサにも使われているんだよ。

*子どもの反応

・糸川さんが考えた宇宙船に使われていることに感動していた。

*それは偉人(糸川英夫)と地域の大人と自分の大先輩の出身校が繋がる。

●実践二、生活科「地域の名人を探そう」

*もう一つの事例として
インタビュをしよう。

・なぜ、お米屋をやっているんですか？

・米屋さんの反応

「むかしは、ご飯を食べられなかった。おいしいお米を届けるのがわた

しの仕事。君たちの給食のお米は、私たちが仕入れているんだよ。お米を食べて元気になってもらいたい。」

*その後の子どもの反応

・給食を残さないようになった。
・たくさん食べるようになった。

次に、コンビニの店長さんにインタビューをした。

・店長さんは、地域の人に喜んでほしい。その思いで、今コンビニをしているんだよ。昔は酒屋を志していたけどね。人の役に立ちたいんだよ。

*大人の志に触れた子どもの変化

・今まで以上に給食完食

・志に触れて、掃除も一段と力が入る。

●実践三、

*学級通信の活用

「志」の学習をして子ども一人一人の反応を学級通信の形にして保護者に渡すことにした。保護者は自分の子どもも含めてクラス全員の素敵な所を発見していた。

●以上のような実践の結果として

○子どもたちは、

・自分からがんばろう。
・これからは人のために何かをすることを大切にしたい。
・あんなにすごい人たちがいるんだと思つた。

・私たちのために尽くしてくれた人がいるとは知らなかったけど、知れてよかった。みんなとずっと勉強をした。

●一人一人の意見や考えをプリントしてラミネートして、子どもたち配布する。

*変容する子供の姿

・自主的に掃除をするようになった。
・棚の片付けをするようになった。
・喧嘩をしなくなった。

●結論として

二年生になつたばかりの子どもの実態は、学年が終わる三月の時点では夢のような姿に変容した。

○子どもの学年当初との比較

・皿が割れるのは殆どなくなった。
・給食の準備、片付けが早くなった。
・給食は完食。
・掃除をしつかりする(時・場・札)

・離席なし。
・物を大切にす。

・クラスみんなに手紙を書く子が増えた。
・黒板を綺麗に消せるようになった。

○結果として子ども達の心に、働く人は、みんな人の役に立ちたいという思いでいることをつかんできたようである。

保護者の反応
「日々の当たり前は、たくさん

人々の努力で成立していることに気づかせて頂き感謝です。子どもたちの自律した行動が、この先も続いてほしいです。」

★教師の偉人語りの思い・願いは、

・子どものより良く生きたいという想いや志は教師だけでなく、家族・地域で育んで行くもの、それを繋げてくれるのが、偉人語りであると考えている。

〈中学校〉

オンライン研修の成果と課題

E M A代表浪速中学校高等学校教諭

松尾大輔

松尾先生の学校は早くからオンライン授業対応の環境が整いコロナ禍であっても研修ができるということ、自ら主催するE M Aという会の会員は全国に約八十名、素晴らしい研究成果を出している。研修時間といえば、毎週日曜日の夜の研修である。

松尾先生が中心となり、「研修をデザインする」ことで仲間と意見交換して実践活動が続いている。その内容は①自分語りの設定、②困り感に添う企画、③若い教師や民間の力の活用、④ベテラン教師に実践と人生を学ぶ、⑤教育実践の流行に左右さ

れず、日本にふさわしい教育の在り方を探る、といったことを意識しながら進めている。

この成果は校内研修にも生かして、リアルとリモートのハイブリッド研修ができた。研修内容をアーカイブ化してあるのでいつでも、どこでも見ることができる。何よりも管理職も含めて職員間の意思疎通が進み、職員室の雰囲気も良好になるといって、一石二鳥の効果を生んでいる。

〈高等学校〉
生徒と教職員の心を耕す
スピーチの実践

元岐阜県立特別支援学校長 坂口浩之

校長先生として年間二百回を超えるスピーチを生徒や教職員にされたそうである。その時心がけていたことは、スピーチを通して、「聞き手のところに響き、そこを耕す発信をする」ということである。そのためには常日頃から子どもたちとの関わり方を含め相応の工夫が必要である。そして、そのねらいは、人（日本人）としての在り方を得させ、生活や学習に前向きな態度と意欲を養う。そのために歴史や文化伝統、人物の生き方の事例を取り上げ、自己肯定感を高め、日本人としての自覚

を深めると共に、感性を引き出そうと考えた実践した。
生徒の実態を考えながら、どの生徒も、「楽しかった」「また聞きたい」と思えるように、調査・研究することをこころがけた。

学校法人清風学園園長

平岡英信氏逝く（享年九十二歳）

令和五年十二月十六日永眠

令和六年一月二十五日（木）

清風学園で恩ぶ会が盛大に執り行われた

ご冥福をお祈りいたします

大阪教師会には永きにわたり公私共にご支援いただきました

日本教師会第六十二回教育研究大会

期日 令和六年八月四日（日）

10時～16時

場所 四日市市地場産業振興センター

（研修室5）

研究主題

地域と共に創る教育

～郷土を教え、郷土を愛し、地域創生をはかる～

協賛校名一覧

二十一世紀は、私立学校が、子育て（人育）をリードする

天満学園大成学院大学高等学校	履正社高等学校	興國高等学校	東大阪大学敬愛高等学校	淀之水学院昇陽高等学校
	四天王寺中学校・高等学校	清風南海中学校・高等学校	清風中学校・高等学校	早稲田播陵中学校・高等学校